



観点別 内容と特色

1.

教育基本法との関連

観点

教育基本法に示された教育の目標を達成するための配慮は、どのようになされているか。

観点	内容と特色
	<p>教育基本法第一章第二条に示された内容を幅広く取り扱うよう、児童の興味・関心に合わせて教材や学習活動の設定を工夫し、発達段階に応じて適切に配列している。</p>
	<p>① 幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養う【第1号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域において、自然や社会に関する幅広い知識・教養に触れたり、真理を求める態度を養ったりできるよう、さまざまな話題・題材を設定し、発達段階に応じて提示している。 言語、言語様式などに関する基礎的・基本的知識、また「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動や情報活用に関する基礎的・基本的技能が着実に身につくように、学習活動および内容を構成・配列している。 学校図書館や公共の図書館に着目する教材など、日常生活の中で、読書が自分たちの中いかに位置づき、いかに意義あるものかを発達段階に即して考える機会を設けるとともに、教科書の随所に多様な本を紹介することで、幅広い分野に関する知識や教養を豊かにできるようにしている。(3年上P34、P35、P144など)
	<p>② 豊かな情操と道徳心を培う【第1号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の姿を多様な角度から描いた優れた文学的文章、たゆまぬ探究心から研究に取り組む過程やその成果をまとめた説明的文章などを数多く掲載することによって、豊かな情操と道徳心を養うよう配慮している。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動においても、児童を取り巻く環境や社会的な課題に合致した題材を扱い、健全な精神を育むことができるよう配慮している。
	<p>③ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う【第2号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が個性をいかして主体的に学習活動に取り組み、互いに認め合いながら、学習することの喜びや達成感が得られるよう配慮している。 自他の違いを尊重することの大切さに触れられる教材や学習活動を設定している。(3年上P118など) 6年間を通して、詩や物語、短歌・俳句などを創作する活動を設定し、豊かな創造性を培えるようにしている。(1年下P40、4年下P117など) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域および「言葉」の特設単元・言語小単元においては、冒頭に「問いをもとう」を掲げた。作品・文章や話題・題材に関わって、児童一人一人が当該単元の学習で追究したい「問い」をもつことから学ぶ意欲を喚起し、「個別最適学び」に資するよう工夫した。また、その「問い」が、当該単元の主たる学習内容につながるよう配慮している。(3年上P32、P44など) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元において、冒頭に活動の流れを示し、見通しをもって学習に取り組めるようにしたり(3年上P44、P66など)、「読むこと」の手引きを全て見開き構成として、〈見通しをもとう(問いをもとう・目標)〉〈学習過程に沿った課題(とらえよう・ふかめよう・まとめよう・ひろげよう)〉、〈評価の三観点に沿って設定した「ふりかえろう(知る・読む・つなぐ)」〉が一覧できるようにしたりすることによって、児童の主体的な学習態度を育もうとしている。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元および「読むこと」手引きを上下二段組みの形に構造化し、上段には指導事項に対応した設問や学習活動を、下段には上段の設問や活動に取り組むうえでの手立てや留意点を示すことで、児童の自律的な学習態度やその能力を養うようにしている。(4年上P62-63、5年P79-81など) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各単元に位置づけている〈ふりかえろう〉は、児童が主体的に学習を確認し、自分の言葉で自らの学びを自覚化できるよう工夫している。
	<p>④ 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う【第2号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な仕事や働く大人などに目を向けるテーマの文章や学習活動を設定するとともに、自分の現在の生活や将来について考えを述べる活動を設定している。(2年上P123、3年上P98、6年P226、P231など)
	<p>⑤ 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う【第3号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正義と責任や男女の平等、自他の敬愛や協力について考えることができる文章を読むことを通して、これらを大切にしようとする態度を養うようにしている。(2年上P67、5年P171、6年P210、P256など) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動において他者と協働する学習場面を設定することで、自他の敬愛と協力の価値を実感し、それを重んずる態度を養うようにしている。(4年上P92、6年P188など)
	<p>⑥ 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う【第3号】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代社会の問題を取り上げたり、児童自らが属す社会である学校内から課題を見つけて考えたりする教材や活動を積極的に設け、社会の形成者たる児童を育成するようにしている。(5年P136、P184、P222、6年P140など) 友達との対話活動を通して、共に考え行動して問題を解決する場を積極的に設け、社会を形成する一員であることを体験的に自覚できるよう配慮している。(2年下P36、3年下P36、4年下P40など)

⑦ 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う【第4号】

- ・生命や自然について書かれた文章を読んだり、環境問題に対する自分の考えをまとめたりする活動を通して、生命や自然に対して畏敬の念をもつと同時に、生命を尊重し、自然を大切に心や環境保全に寄与する態度を養おうとしている。(1年下P80、3年下P97、5年P149など)

⑧ 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養う【第5号】

- ・現代まで続く我が国の言語文化を大切に考え、言葉・文字・言語作品の全てについて関心をもつことができるよう、優れた古典教材をはじめとし、多くの言語作品を選定・掲載している。
- ・2年以上の全学年に、年間4か所の「季節の言葉」を設け、伝統的な季節感を育む言葉に触れる機会をもてるよう工夫している。(2年上P36 など)
- ・説明的文章や「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の話題・題材としても、日本文化や郷土に関することを積極的に取り上げている。(3年上P53、4年下P47、6年P166など)

⑨ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う【第5号】

- ・他国が舞台の民話・物語、他国の文化を取り上げた文章などを読むことを通して、他国の文化に親しむとともに、他国やその文化を尊重する態度を養うようにしている。(3年下P65、4年上P108、4年下P125など)
- ・戦争や紛争について書かれた作品・文章を読むことを通して、平和を希求する心および国際社会の平和と発展を願う心を養うようにしている。(3年下P13、4年上P71、6年P210、P272など)

2. 学習指導要領との関連

1. 学習指導要領への対応

観点

内容と特色

学習指導要領の方向性に対応した工夫、配慮はどのようになされているか。

① 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）

- ・日常生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に触れて感性を育成するよう配慮している。
- ・国語科で培った言葉の力を他教科や日常生活でいかす態度と能力を育成するよう配慮している。
- ・全ての学習活動において、言葉に着目し、語彙を広げ、語感を磨くための工夫を設けている。
- ・情報と情報との関係の捉え方や、情報の整理のしかた、学校図書館等の活用方法について学んだり、読書習慣の形成を促す学習を行ったりすることで、情報活用能力の基礎となる知識および技能を育成するよう工夫している。

② 理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

- ・日常生活における人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め、思考力・判断力・想像力を養うことができるよう配慮している。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習活動において、課題解決を行う過程で、思考・判断・表現に関わる言語能力を育成するよう配慮している。
- ・相手、目的や意図、場面に応じ、互いの立場や考えを尊重しながら、課題解決に向けて協力し合ったり助言し合ったりする体験を通して、コミュニケーション能力を育成するよう教材化の工夫をしている。
- ・自ら課題を設定し、合意形成したり議論したりしながら考えを深める活動を通して、よりよく問題解決を図ろうとする能力を育成するよう配慮している。
- ・社会の変化に応じて主体的かつ柔軟に行動するために、思考力・判断力および情報を正確に把握して選別し表現にいかす情報活用能力を育成するよう配慮している。
- ・言語活動の素材となる文章や話題・題材は、児童の興味・関心や知的好奇心を喚起し、思考・判断・表現への意欲を高めるもの、また、協働により新たな考えや価値を生み出せるものを厳選している。

③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

- ・我が国の伝統的な言語文化や近代・現代の優れた言語作品を積極的に取り上げ、これらに親しませる学習活動を通して、創造と継承を繰り返しながら形成されてきた我が国の言語文化を享受し、それらを新たな創造へとつないでいこうとする心情を育成するよう配慮している。
- ・読書の習慣が形成されるような学習を行ったり、学校図書館の利用法を考えたりして、自らの読書生活を充実させようとする態度と情報活用の能力を育成するよう工夫するとともに、読書に親しみ、ものの見方や感じ方、考え方を広げたり深めたりする態度や、日常的な読書をより豊かなものにしていこうとする態度を育成するよう工夫している。
- ・さまざまな読み物や学習活動を通して、人と社会の多様性を認め、尊重する態度を育成するよう配慮している。

④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した配慮

- ・全体を見通す、振り返るなどの場面を設定したり、対話や助言し合う場面を設定したり、児童が深く考える場面を設定したりするなど、自ら学習を調整しながら学びを進めることができるよう、教材化を工夫している。

⑤ カリキュラム・マネジメントを意識した教材化

- ・学習の基盤となる資質・能力の育成のために、教科横断的な学習を充実させたり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導を行ったりできるよう、カリキュラム・マネジメントにつながる教材化・単元配列を工夫している。

教科の目標が達成できる
よう配慮されているか。

- ・言語の教育としての国語科の特質を明確にし、児童が言葉による見方・考え方を働かせながら、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを旨としている。
- ・日常生活に必要な国語の特質について理解し、さまざまな場面で主体的に活用でき、生きて働く知識・技能として習得できるよう、教材化や単元配列を工夫している。
- ・日常生活における人との関わりの中で思いや考えを伝え合う力を高めたり、論理的に思考し豊かに想像する力を高めたりすることができるよう配慮している。
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度を育成できるよう、教材化や単元配列を工夫している。

学習指導要領の基準性に
鑑み、内容・系統は適切
に構成されているか。

- ・学習指導要領の各学年の目標および内容がもれなく指導できるよう、教材を選定・作成している。
- ・各単元・教材のねらいを明確にし、基礎的・基本的な内容が着実に身につけられるよう、学年内・学年間を見通して系統的・段階的に位置づけ、低・中・高それぞれ2学年にわたって習得と活用を繰り返しながら螺旋的に高まるよう工夫している。
- ・学習指導要領に示された言語活動例が、低・中・高学年それぞれの段階でもれなく扱えるようにし、育成を旨とする資質・能力が明確になるよう教材を作成・配列している。

2. 分量・配列

全体の分量や、各領域の
単元数・教材数の配分・
配列は適切か。

- ・学習活動を通して「言葉による見方・考え方」を育成できるよう、年間の単元配列を工夫している。
- ・教科書全体を「単元」「小単元」「コラム」「特設単元」で構成し、習得した「知識及び技能」を活用して思考・判断・表現を繰り返す中で、着実に資質・能力を身につけられるよう配慮している。

単元

一定のまとまりのある学習の場。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域に対応したものがある。「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が相互に関連し合いながら育成されるよう、単元構成を工夫した。2年以上では学年に1か所、「読むこと」と「書くこと」を有機的に関連させ、効果的に力がつくように意図した複合単元を設定している。(2年下P42「紙コップ花火の作り方」とP48「おもちゃの作り方をせつめいしよう」など)

小単元

「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項を焦点化して扱うコンパクトな学習の場。特に、2年以上の「書くときに使おう」は、当該小単元で習得した力を、後の「書くこと」単元での学習にいかすことを想定したものである。(2年上P120、3年上P128、4年上P126、5年P110、6年P108など)

コラム

知識の伝達をねらいとして、言葉、コミュニケーション、情報などに関するコラムを設定している。(3年上P48、4年下P35、5年P165など)。

特設単元

図書館や読書活動に特化した単元「本は友達」(各学年)、言語の特質や運用について深く考える単元「言葉について考えよう」(各学年)、卒業を控えた時期のまとめの単元「卒業するみなさんへ」(6年)などを特設単元として設定している。

- ・「知識及び技能」および「思考力、判断力、表現力等」の育成を旨として設定された教材が、特定の時期に集中して偏ることがないよう、単元と小単元を適切に配分し配置している。
- ・3学期制・2学期制のどちらにも対応できるよう、単元・教材の数、学習する領域のバランスを工夫している。また、学年間で単元配列が大きく異なることのないよう配慮した。
- ・各学年巻末には、本単元の学習に資するよう、資料となる教材を掲載している。資料には課題を設けたり、並行読書の扱いができたりと、学級・学校の実情や個に応じて補充的にも発展的にも扱える配慮をしている。(3年下P144、4年上P138など)

3. 教材の選定

教材の選定は適切に行わ
れているか。

教科書全体を通して

- ・学年の発達段階を考慮するとともに、児童の学習意欲を喚起すること、また社会の形成者としての児童を育成するよう、その道徳的心情や道徳的判断力が育つことに配慮した内容・題材の選定を行っている。

入門期

- ・幼稚園・保育所等と小学校の円滑な接続を図れるよう配慮し、児童が学校生活に慣れるとともに、その学習意欲を大事にすることを考えて教材を選定している。

話すこと・聞くこと

- ・児童に身近な日常生活、学校生活、学習場面に取材し、「話す・聞く・話し合う」ことの意義が感じられるように、発達段階に即して題材を選んでいる。また、活動したままで終わることがないように、学習活動からその後の振り返りの場に至るまで意図的・計画的に設定している。

書くこと

- ・相手と目的が明確な話題・題材と、児童がイメージしやすい場を設定することで、書く必要性や必然性を感じ、書きたい意欲が喚起されるよう工夫している。また、取材から記述・推敲までの表現の過程と、その後の交流を、児童の実態に合わせて具体的に示すなど配慮した。

読むこと

- ・児童の言語環境と発達段階に応じて、言葉の美しさが感得できる教材、家族や友人など他者への思いやりを育てる教材、他教科の内容に関連する教材、多様なものの見方・考え方に触れることで自分の考えを広げたり深めたりできる教材などを幅広く選定している。

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・児童の言語生活や既習教材から素材を取り上げ、学習活動を通して言葉や漢字の知識を楽しく身につけるとともに、言葉に関する理解や興味・関心が広がったり深まったりするよう教材化を工夫している。

情報の扱い方に関する事項

- ・情報どうしの関係を捉えて理解したり、情報を分かりやすく整理して活用したりする力を身につけられるよう、情報の扱い方を単元と密接に関連させ、言語活動の中で確実に力をつけられるよう教材化を工夫した。

我が国の言語文化に関する事項

- ・伝統的な言語文化に関しては、先人の遺産としての言語作品を貴重な図版等の資料とともに多く取り上げ、生涯の宝として身につけられるようにするとともに、ことわざや短歌・俳句などは、現代にも息づき享受されている言語文化であることが確かめられるよう教材化を工夫している。

他教科や学校生活との関連は図られているか。

- ・他教科などと有機的な関連が図れるように、話題・題材の選定において配慮・工夫している。
生活 1・2年の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の題材（1年上P64、1年下P20、2年上P56、2年下P48など）や、「季節の言葉」（2年上P36、2年下P34など）。
英語 「ローマ字」（3年上P138）では、英語と密接に関連する「ローマ字表記」を掲載している。説明的文章「言葉の意味が分かること」（5年P54）では、外国語を学習する意義を実感することができ、主体的に小学校英語への学びの意欲・関心を高める態度の育成につながる。「日本語の特徴」（6年P217）では、日本語と英語の語順について比較して意識することができるようにしている。
算数 「アンケート調査のしかた」（4年上P98）、「自然環境を守るために」（5年P160）など。
社会 「パンフレットを読もう」（4年上P122）、「統計資料の読み方」（5年P165）など。
理科 「ありの行列」（3年下P97）、「春の空」（5年P44）など。
音楽 「冬がいっぱい」（2年下P80）、「詩や歌の音の数」（3年上P93）など。
図工 「『鳥獣戯画』を読む」（6年P155）など。
道徳 「やくそく」（1年上P102）、「友情のかべ新聞」（4年下P65）など。
総合的な学習の時間
 - ▶食育 「すがたをかえる大豆」（3年下P43）、「食べ物のひみつを教えます」（3年下P52）など。
 - ▶環境 「固有種が教えてくれること」（5年P149）、「自然環境を守るために」（5年P160）など。
 - ▶情報 「想像力のスイッチを入れよう」（5年P199）、「インターネットでニュースを読もう」（6年P104）など。
 - ▶郷土・ものづくり 「未来につなぐ工芸品」（4年下P47）、「工芸品のみりよくを伝えよう」（4年下P56）など。
 - ▶職業・防災 「仕事のくふう、見つけたよ」（3年上P98）、「もしものときにそなえよう」（4年下P84）など。
 - ▶福祉 「点字と手話」（5年P256）、「星空を届けたい」（6年P89）など。
 - ▶平和・国際理解 「考える人の行動が世界を変える」（6年P210）、「平和のとりでを築く」（6年P272）など。
 - ▶学級生活・学校生活 「楽しかったよ、二年生」（2年下P132）、「おすすめの一さつを決めよう」（3年下P36）、「クラスみんなで決めるには」（4年下P40）、「よりよい学校生活のために」（5年P136）、「みんなで楽しく過ごすために」（6年P140）など。
- ・学習活動面においても、他教科の学習で活用できるよう配慮している。——観察記録文を書く（2年上P56）、資料を見せながら発表する（3年下P116など）、新聞を作る（4年上P92）、調査報告文を書く（5年P78など）、グラフや表を引用して書く（5年P160）、情報を取捨選択してまとめる（6年P76、P226）など。

地域性への配慮は適切に行われているか。

- ・話題・題材は、農山漁村・都市などの地域的な偏りを避けるとともに、国際的視野が育つように、バランスのとれた構成になっている。
- ・地域や地域の文化に対する関心を高め、理解を深め、愛着や誇りをもつことができるよう配慮している。「わらしべちょうじゃ」（1年下P96）、「いなばの 白うさぎ」（2年上P62）、「こまを楽しむ」（3年上P56）、「未来につなぐ工芸品」（4年下P47）、「方言と共通語」（5年P132）、「アイヌ語の地名が伝えること」（6年P277）など。

4. 挿絵・付録ほか

資料は学習効果を高めるものになっているか。

① 絵・写真、図やグラフの活用など

- ・教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げられる絵・写真を適所に掲げている。また、内容を解説するための写真や図・グラフが必要な箇所に付し、本文理解の助けとなるよう工夫している。点字見本のページ（5年P257）のように、実際に触れた感覚を得られる資料も設けている。
- ・絵や写真と文章を対応させながら読む教材を各学年に配し、絵・写真から読み取ったことをもとに考え、話し合う学習が行えるよう配慮している。（2年下P41「紙コップ花火の作り方」、4年上P56「アップとルーズで伝える」など）
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元や、「読むこと」手引き等に、種々の表、マップなどを配し、考えを形成したりまとめたりする思考ツールとして活用できるよう工夫している。（1年下P86、3年下P82、5年P47など）
- ・文学作品や「聞いて楽しもう」では、その時代状況などを踏まえながら、美しく、楽しく、想像を広げられる挿絵を選定し掲げている。

② 巻頭資料や巻末付録など

教科書の巻頭や巻末には、以下の内容を共通して掲げ、学んだことの整理や自学の助けとなるよう配慮している。

巻頭

▶「国語の学びを見わたそう」

「主体的・対話的で深い学び」をどう進めていくかを視覚的に示した「どうやって学んでいくのかな」と、領域ごとに学習内容を整理した「○年生で学ぶこと」「○年生で学んだこと」とで構成。冒頭ページには、学年の発達段階に応じて、国語を学ぶ意義を考慮することができるよう、呼びかけを添えている。学年の見通しと既習事項を確認することによって、当該学年の国語学習への期待と意欲を喚起するよう工夫した。

▶「言葉の準備運動」「詩を楽しもう」「楽しく書こう」「続けてみよう」

学年の国語学習開始時の緊張を解きほぐし、学習に意欲的に向かっていく素地を作る教材や、年間を通して続けていきたい活動を掲げた。帯単元などとして活用することも可能である。

▶巻末付録「学習を広げよう」

▶「『たいせつ』のまとめ」

本文中の「たいせつ」を領域ごとにまとめて、繰り返し学習の確認ができるよう配慮している。2年以上では、学習を振り返り、自分にとって大切だと思うことを記入する欄を設けている。

▶「本の世界を広げよう」

各学年に適した本を幅広いジャンルから選んで掲げ、読書生活の拡充を図るよう配慮している。

▶「伝え合うための言葉」

2年以上で学年1か所、さまざまな学習場面で考えを伝えたり聞いたりするときに役立つ言葉をまとめた。国語におけるプログラミング的思考の育成の一助となるよう、「課題解決につながる言葉」も示した。

▶「学習に用いる言葉」

2年以上の各巻巻末に、国語の学習でよく使われる用語をまとめ、学習に資するようにした。QRコードを付すことで、既習の学習用語を振り返ることができるようにした。

▶「言葉の宝箱」

感想を伝えるときなど、表現する際に、より適切な語の選択ができるよう、類義表現を集めて掲げた。いつでも使いやすいよう巻末折込とし、さらに、QRコードを付すことで既習の言葉を振り返ることができるようにした。(1年下～6年)

▶「図を使って考えよう」

思考を整理したり広げたりする方法や、それを表現する際の話型・文型を示した。巻末折込「言葉の宝箱」の裏面に掲載し、いつでも確認できるようにした。(2～6年)

▶「読むこと」資料教材

本編教材で身につけた力をいかして文学や説明文の学習に取り組むことができるよう、作品・文章を掲載した。冒頭に課題を付し、個や学級で取り組むことができるようにした。

▶「これまでに習った漢字」「この本で習う漢字」

漢字の読み方、筆順、用例を整理している。

▶その他

学年に応じて補充的な学習・発展的な学習に資するよう、資料・教材を精選し位置づけている。——平仮名表と片仮名表(1・2年)／「手紙を送ろう」(3年上)／「インタビュー」(3年上)／「げんこう用紙の使い方」(3年下)／「ローマ字の表」(4年上)／「点字と手話」(5年)／「詩から表現の工夫を学ぶ」(6年)／「課題解決に向けて考える」(6年)など。

③ QRコードによるデジタル資料

- ・児童の主体的な学びに資するよう、教科書連動コンテンツ「広がる学び 深まる学び」を設定し、「話すこと・聞くこと」実写動画や「書くこと」作例全文、資料動画・資料写真、音声、入門期言語学習用ワークシートなど、学習の参考になるコンテンツを6学年で200点以上収録している。教科書の随所に記載されているQRコードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧することができる。
- ・2年以上の巻末付録「学習を広げよう」の扉に付したQRコードには、学年段階に応じて「課題の見つけ方、調べ方」「平仮名と片仮名」「ローマ字の表」を収録し、国語学習や他教科の学習の参考に資するよう配慮した。
- ・教科書の裏表紙に付したQRコードには、ICT機器活用時の留意点、感染症対策、防災、SDGs、外国人児童等のための学校で使う日本語に関するコンテンツを用意し、学校生活や学習に資するよう努めた。(※QRコードを参照する際には、児童だけで使わないように留意する必要がある。)

文字提出・表記・表現は正確を期し、配慮しているか。

- ・1年では、6月中旬までに平仮名を全て提出し、夏休み前までは習熟を図る期間としている。漢字・片仮名は9月から提出して、無理なく学習できるよう配慮している。
- ・漢字学習は言葉の学習であると捉え、各学年配当漢字を全て本文中に提出している。また、2年までは、全ての音訓に文脈の中で触れることができるよう、配慮している。
- ・新出漢字は当該ページ欄外に語として抽出し、読みの負担を軽減するとともに、3年以上では新出箇所でも本文使用以外の音訓も示した。さらに付録で読み方、筆順、用例を示している。また、1教材での漢字提出数を制限し、児童の過重な負担とならないよう配慮している。
- ・文中に平仮名が多い2年生までは分かち書きを採用し、第2学年中に徐々に通常の文章に読み慣れるよう、「文節による分かち書き—2・3文節まとめた分かち書き—分かちのない通常の書き方」へと段階的に移行している。
- ・表記の基準は全学年にわたって統一し、正しい表記が身につくよう配慮している。
- ・原則として交ぜ書きをしないよう配慮している。また、詩歌に関しては原作のまま掲載することとし、未習漢字には振り仮名を付して掲載している。

文字の書体・大きさ、文字組などは適切か。

- ・本文には、教科書のために特にデザインした光村教科書体を用いている。美しく読みやすいだけでなく、書き文字に近い正しい字形を意識させることができ、文字指導に効果的である。
- ・特に低学年は、形の認識によって文字を習得していくことから、教科書体の文字を太くし、はっきりと文字の形がとれるように配慮している。なお、中学年以上以降は、文字理解が進み、読み進めることができることから、文字の太さが刺激にならないよう通常の書体を使用するよう配慮している。
- ・見出しや、図書紹介・学習用語解説などの小さな文字は、ユニバーサルデザインの視点から見やすさや読みやすさを配慮して制作された「UDフォント」(UDFont)を使用している。
- ・各ページの字詰め、行詰めは児童が読みやすいようにデザインされている。
- ・書き文字は書写指導上適切な美しく正しい字形を用いており、特に低学年の文字指導上効果がある。

- 支援を必要とする児童が学習上での負担を感じることをないように、紙面構成にあたっては全てのページにおいて専門家の校閲を受けている。

表紙・製本・印刷などは適切か。

- 表紙は、耐久性を高めるPPラミネート加工を施して折れにくく、製本は堅牢である。
- 表紙絵は、児童が国語の学習に親しみをもち、楽しさを感じ、学習意欲を高めるようなものを採用している。
- 印刷は鮮明で読みやすい。特に、色覚特性に対応するため、配色・色調にも配慮している。
- 環境への負荷に配慮し、できるだけ重量が軽く、色の裏写りが少ない用紙を開発して使用している。また、植物油インキを使用している。

5. その他

特別支援教育への配慮はされているか。

- 学習上支援が必要な児童のために、また教科書のユニバーサルデザインという観点から、特に以下の点に配慮している。
- 読みの能力が十分発達していない児童に配慮して、単語や文節が行をまたぐことを最小限にしている。特に低学年では、できるかぎり文節が行が切れるように文字数や字間を調整している。
 - 学習の見通しがもてることを重視して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材は、冒頭に活動の流れを位置づけ、活動の順序がはっきり意識できるよう配慮している。
 - 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材および「読むこと」手引きにおいて、上段と下段の性格づけを明確にした2段組みの構造をとることで、どこを、どう読み、何が大切なかがひと目で分かるよう工夫している。
 - 情報のまとまりが認識しやすいよう、身につける力やその活用場面には👉や👎、学習用語の解説には👉、単元の学習活動の中で使いたい言葉・表現には😊を付して示している。
 - イラストと解説されているものの境界を混同することのないように、絵柄の区切りがはっきりするよう配置したり、写真と写真の間を空けて配置したり、境界が明確に区別できるように線で囲んだりするよう配慮している。
 - 色覚特性に配慮して、図表等については、色による識別に頼ることなく形で識別できるように作成している。また、色を問う活動を設定しない、説明の際は色以外の情報も合わせて示すなど、教材化に配慮している。(2年上P40「ともだちはどこかな」など)

幼稚園・保育所等と小学校との連携、また、中学校との連携に配慮しているか。

- 学校生活への不安をなくし、明るくスタートできるよう、1年第一教材「はるがきた」およびスタートブック「さあはじめよう」を、幼稚園や保育所等での遊びや生活、学びの経験をいかしながら、子どもが主体的に取り組めるように配慮した。幼保小の架け橋期のスタートカリキュラムとして、子どもたちの意欲や多様性を受け止め、4月の学校生活に密着した楽しい教材とし、6年間の学習の基礎づくりを行えるようにしている。
- 学校内で自然に話ができる友達を作ることにつなげていけるよう、特に1年においては、隣の席の友達やグループのまとまりなどでの「対話」場面が多くなるよう教材を作成している。
- 夏休み前までを「平仮名習得期」と位置づけている。この期間に多くの言葉や文を読むとともに、早い時期から平仮名で文を書くことで、達成感をもち、習得への意欲が増すよう工夫している。
- 6年の卒業単元に「中学校へつなげよう」を設定し、小学校6年間で習得した言葉の力を確認し、特に身につけた力とその活用場面を書くことを通して、中学校での学習に安心感をもって円滑につないでいけるよう工夫している。
- 5・6学年では、4年までの分冊形式をとらず、学年1冊としている。中学1年という、大きな学習環境の変化にとまどいをおぼえる児童のために、小学校のうちから中学校で使用する形式と同じ教科書に使い慣れておくことは、学習環境のギャップを埋め、適応しやすくするための配慮として望ましいものである。また、学習においても、前に学んだことを確認したり、付録を活用したりと、教科書のさまざまな箇所を開いて学ぶことが多くなるこの時期に、1冊の教科書で対応することは、学習の効率化と自己調整力の向上を図ることにもつながる。

今日的な課題への対応はどのようになされているか。

- 特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点のほか、学習のユニバーサルデザイン、防災教育、外国人児童生徒等教育、人権教育の観点から教科書全体の校閲を受け、それぞれ配慮を施している。
- 伝統や文化、法、知的財産、郷土や地域、環境、生命の尊重、食、防災・安全などに関する教育の観点から話題・題材を選定し、社会を形成する児童が将来にわたって考えることにつながるよう配慮した。
- 児童が視野を広くもち、持続可能な社会のために行動できる主体として育つよう、SDGsに関連するテーマを幅広く取り上げるとともに、2年以上で学年1か所、巻末に「SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて」として、発達段階に応じた図書を紹介している。(2年上P152など)

3.

育成をみざす資質・能力の内容と特色

知識及び技能／思考力、判断力、表現力等

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成においては、それぞれを相互に関連させつつ、資質・能力として一体的に育成できるよう、教材化および年間の単元配列を工夫している。

1. 知識及び技能

観点

内容と特色

言葉の特徴や使い方に關する事項

① 言葉の学習

- 言葉についての知識の整理と練習学習によって言葉の力が確実に定着するよう、小単元を上下巻に偏りなく配した。
- 各学年に言葉そのものを対象化して知識を得たり考えたりする特設単元を位置づけ、児童が言葉の世界の豊かさを

実感するとともに、言葉の自覚的な使い手として育つよう配慮している。(1年下P90、3年下P107、5年P213など)

2 漢字の学習

- 漢字に関する小単元を随所に設け、楽しみながら漢字の知識が身につくようにしている。また、各学年6か所(2年は5か所)に「漢字の広場」を設け、前学年で学んだ漢字を文や文章の中で使える力となるよう工夫している。
- 都道府県名の漢字は、「カンジーはかせの都道府県の旅」(4年上P50、P100)として設定し、楽しく学びながら定着させることを意図した。

3 語彙を豊かにするために

- 全教材を通して常に言葉に着目し、語句を増やし、語感を磨き、日常生活にいかせるよう配慮している。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動に関連する語彙を示して、思考を支える言葉と活動が結び付くようにしたりするなど、教材を工夫している。(2年上P60、5年P139など)
- 1年下以降の巻末折込として、考えや気持ちを伝える言葉をまとめた「言葉の宝箱」を設け、児童が主体的に活用できるようにしている。

情報の扱い方に関する事項

- 「情報の扱い方」に特化した教材を、理解や表現を伴った場面で習得・活用できる構成として2年以上に設定した。活用場面を意識した「関係をとらえよう」(3上P65など)、「集めて整理して伝えよう」(3年上P96など)の二つの系列で整理している。情報どうしの関係を捉えて理解したり、情報どうしを整理したりする力を身につけられるよう、単元と密接に関連させ、言語活動の中で確実に力をつけられるよう教材化を工夫した。

我が国の言語文化に関する事項

1 伝統的な言語文化

神話・伝承、民話・昔話、短歌や俳句、古文・漢文などの作品を多数取り上げ、これらに親しむ活動を通して、日本語の美しさや豊かさに触れるとともに、我が国の言語文化を継承し、新たな創造や発展を願う態度を育むよう、教材化を工夫している。

- 3年以上の各学年2か所に「声に出して楽しもう」を設け、俳句や短歌などの伝統的な言語作品に触れて音読したり暗唱したりする学習の場としている。
- 2年以上の各学年4か所に「季節の言葉」を設け、日本人の季節感を育んできたさまざまな伝統行事や風物などを言葉とともに取り上げると同時に、それらを題材にした韻文に触れることで語感を育成する工夫をしている。

2 読書

読書に対する意欲を高め、読書の幅を広げ、読書を通して思考力や想像力を養うことを目指して、次のような工夫をしている。

- 特設単元「本は友達」を学年に2か所設定した(4月・7月)。4月の「本は友達」は、特に「図書館活用」に特化し、効果的な学習のために図書館を活用することに着目する教材を位置づけている。7月は、選書の方法や目的・本の種類に応じた読み方を含む「読書」に関する知識・技能等の習得と、読書生活に対するメタ認知を促し、日常生活においても自ら進んで本に手を伸ばす意識を育むことを意図した。
- 「読むこと」の手引きに「この本、読もう」を設け、学習に関連する図書の紹介を行っている。図書に関心がもてるよう、紹介文をつけている。
- 各学年の巻末付録に、読書への意欲・関心を喚起するために、「本の世界を広げよう」を設け、学年に適した本を、表紙写真、紹介文とともに提示している。
- 紹介している本は、全て人権教育の観点からも十分吟味し、選定している。

2. 思考力、判断力、表現力等

入門期

児童の言語生活の基礎・基本を培うことを目指して、現実の生活と学習を結びながら、達成感をもって、楽しい学習の導入期間となるよう教材化を工夫している。

- 第一教材「はるがきた」では、描かれた絵を見ながら、見つけたものや想像したことを伝え合うことを通して、言葉でつながる楽しさを味わうことから国語の学習を始めることを意図している。主体的に友達と関わり合う姿勢を育むとともに、どの子どもが安心して言葉を発し、個性と多様性を受け止め合える教室づくりにも寄与するよう配慮した。
- 小学校生活の始まりである大切な時期に、国語学習に臨む態度づくりを意図したスタートブック「さあ はじめよう」を設定し、話す、聞く、書く、読むといった国語の力の基盤づくりを行うことを意図した。
- 「なんていおうかな」「どうぞよろしく」をはじめとして、児童の対話場面を多く設定し、人と関わり合いながら学校生活に慣れ親しんでいくよう配慮している。

夏休み前までを「平仮名習得期」とし、児童の学習意欲を大事にしなが、読んだり書いたりする活動の中で、国語に親しみ、使い慣れ、その規則性を感得できるよう工夫している。

- 文字要素は、清音・濁音・促音・拗音など、一つ一つ段階を踏みながら身につけられるよう系統的に配列してある。
- 文型は、「主語・述語」の文、「主語・修飾語・述語」の文のように、先行教材に即して教材ごとにステップアップし、児童の学習意欲をいかしながら繰り返すことで、無理なく着実に身につくよう配慮している。

短い時間で継続的に基礎的な学習を積み重ねながら定着が図れるよう、「ことばのたいそう」を設定した。集中力の途切れがちな長期休み明けの年間3か所に設けている。6年間の国語学習の土台を、この時期にしっかりと築くことを意図している。

- ・音読…詩の音読を通して日本語の語感やリズムに触れる。発達段階に応じて詩の分量や数を増やしている。
- ・対話…相手に伝える、相手の言葉を受け止めるという行為を日常的に積み重ねることで、児童の対話力の育成を目ざしている。
- ・言葉遊び…言葉を題材にした楽しい活動に繰り返し取り組むことにより、無理なく児童の語彙を増やし、豊かにしていくことを目ざしている。

話すこと・聞くこと

- ・児童の発達段階、学習の習熟度、目的性、必然性を考慮して、多彩な言語活動を系統的に位置づけている。また、リード文、「ふりかえろう」、「たいせつ」、「いかそう」、「」などで身につける力を明確に示し、ここでの学習を確認したり、他教科や日常生活でいかしたりできるよう配慮している。
- ・主たる学習機会は、2年に年間6か所、3～6年に年間5か所あり、「話す」「聞く」「話し合う」学習を集中的に行うよう工夫している。加えて、「書くこと」「読むこと」の学習における交流場面などに具体的な発話例を示し、定着と活用を図っている。
- ・2年以上の上巻および5・6年の冒頭に「言葉の準備運動」を設けている。声を掛け合いながら並んだり、自己紹介をしたりという、対話を中心とした活動を行うことで、新学年が始まるときの児童の緊張を解きほぐし、学級の間づくりにもつながることを意図している。
- ・2年以上の上巻および5・6年に「対話の練習」を設けている。楽しい状況設定を仮定し、その中で相手や目的を意識しながら対話の進め方を学んでいく学習として教材化した。
- ・単元においては、問題解決的な学習活動を想定し、児童が自ら課題を設定して取り組めるように教材化するとともに、単元冒頭に活動の流れを示し、主体的に見通しをもって取り組めるよう工夫している。また、学習に取り組むにあたって、児童一人一人が話題・題材や当該単元で身につける力に関わる「問い」をもてるようにし、学習への動機づけ・意欲喚起を図った。
- ・言葉で人間関係を築くため、対面による口頭表現に特化した「コミュニケーションコラム」を系列化し、2年以上に位置づけている。(3年上P48、5年P142など)
- ・発言例の意味を吹き出しの傍に示したり、聞き取りメモ例を具体的に示したりするなど、教科書に示していることの意味が学習者に明確に伝わるよう工夫している。(4年上P46、5年P141など)

書くこと

- ・児童の発達段階、学習の習熟度、目的性、必然性を考慮して、記録・説明・報告・紹介など、多彩な言語活動を系統的に位置づけている。また、リード文、「ふりかえろう」、「たいせつ」、「いかそう」、「」などで身につける力を明確に示し、単元での学習を確認したり、他教科や日常生活でいかしたりできるよう配慮している。
- ・主たる学習機会は、2年に年間9か所、3～6年に年間8か所あり、手紙・日記、観察記録、調査報告、紹介、提案、創作などに重点的に取り組めるよう工夫している。それぞれの単元では、つけたい力を明確に焦点化して学習できるようにした。
- ・2年以上の上巻および5・6年の冒頭に「楽しく書こう」を新設した。書くことへの苦手意識を軽減するような楽しい活動を通して、友達とつながり、自己肯定感がもてるよう配慮した。
- ・学習の積み重ねを実感できるよう、指導事項を焦点化した小単元「書くときに使おう」を、2年以上に新設した。当該小単元で身につけた力を、他の単元でいかせるよう工夫した。
- ・「季節の言葉」「漢字の広場」においても書く課題を設定し、年間を通じて繰り返し学習することで定着と活用を図っている。
- ・単元においては、問題解決的な学習活動を想定し、児童が自ら課題を設定して取り組めるように教材化するとともに、単元冒頭に活動の流れを示し、主体的に見通しをもって取り組めるよう工夫している。また、学習に取り組むにあたって、児童一人一人が話題・題材や当該単元で身につける力に関わる「問い」をもてるようにし、学習への動機づけ・意欲喚起を図った。
- ・児童作例については、取材メモ、構成メモを含めて、提示の意味が学習者に明確に伝わるよう工夫している。(2年上P85、5年P80など)

読むこと

① 言語活動

指導事項と言語活動を単元名に掲げて、児童が目的をもって読む学習に臨めるようにし、習得と活用とが滑らかに進めるよう課題を設定するとともに、ここで身につけた力や考えたことが他教科や日常生活でいかせるよう配慮している。

② 説明的文章

説明的文章については、人間尊重と自然尊重を基本として、多様なテーマを取り入れている。生命・情報・平和・科学技術・郷土愛・ものづくり・国際理解などの現代社会を生きる児童が考えるにふさわしい話題も取り入れ、知識を得るだけでなく、調べたり協働したりする中で、自分の考えをもち、深められるよう工夫している。

- ・内容を理解するだけでなく、学年の段階に応じた論理展開と文章構成を考慮し、論理的な思考力の深化と多様化を図っている。

③ 文学的文章

文学的文章の選定にあたっては、生命の尊さに気づき、人間尊重の精神を養うものであることを基底に、多様な作品を偏りなく選んでいる。

- ・我が国固有の文学の継承を目ざし、内容・表現・言葉のリズムなどを通じて民族の心に触れられる作品を積極的に取り入れている。同時に、さまざまな国や民族への理解を深め、国際性を養う作品を取り入れている。
- ・美しい文体を備えた芸術性の高い作品を選び、言葉のリズムの美しさ、快さが感得でき、音読や鑑賞、また自分なりの感想をもち共有する学習を通して、読むことの意義が体得されるよう単元を設定している。